

北海道

青森県との連携・交流を促進し、ともに発展。



北海道知事 高橋 はるみ

3月26日

の北海道新幹線開業ま

であとわずかととなり、いよいよ北海道から鹿児島まで、日本列島の南北2150キロが新幹線でつながります。道民の長年の悲願であった新幹線の開業は、まさに青函交流の歴史の新たな1ページとなるものと考えています。

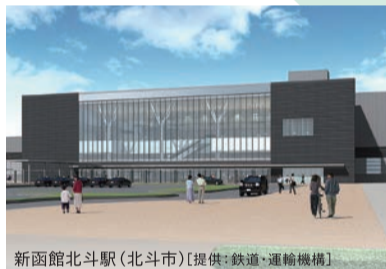
北海道新幹線の開業により、東京から新函館北斗駅まで約4時間で結ばれることとなり、約1400万人の人口を有す

相互交流が飛躍的に拡大することが期待されます。

また、経済団体等の試算によると、新幹線の開業効果は道内だけで年間120億円とも言われており、道といたしましては、この大きなチャンスを活かし、道内経済の活性化につなげていくため、道内外での開業PRをはじめ、食や文化を活かした観光地づくり、交通アクセスの充実といったさまざまな取組を進めています。さらに、開業効果の全道波



る北関東4県から3時間台で本道にお越しいただけるほか、仙台とは約2時間半、そして、何と云っても青森県とは1時間程度で結ばれ



新函館北斗駅(北斗市) [提供: 鉄道・運輸機構]

及に向けての課題として、国土の約22%を占める本道の広大さがありませんが、道では、本道の食や観光などの情報を新函館北斗駅を拠点に広く道内外に発信するとともに、開業日の3月26日から31日までの間、新函館北斗駅前において、北斗市と共同で、本道各地の食や地酒などの提供や、地域の方々による伝統芸能や本道らしさを感じていただくため、アイヌ舞踊などを披露する歓迎イベントを開催することとしています。加えて、函館空港から道東・道北へのチャーター便によるモニターツアーや航空路線開設の支援をはじめ、レンタカーによる周遊促進やバスの試験運行などの取組も進めています。

青森県との間では、道南地域と青森県を一体の地域として

北海道と北東北に共通する縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す共同事業など、本道との関わりが深い青森県とは、今後とも、更なる連携と交流の促進に努めてまいりたいと考えています。

3月26日には、大きな盛り

上がりの中で、北海道新幹線の開業を迎えることができるよう全力で取り組んでまいりますので、これまで以上のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

青森県と北海道をつなぐ

津軽海峡圏の人とモノの交流を深め、新たな魅力を発信したい。

青森の皆さんと道南の人々は古くから交流があり、これまでも修学旅行や観光で行き来するなど、観光面において深い交流がありました。北海道新幹線開業によってさらなる観光振興が期待できることはもちろんですが、私はビジネス面においてもまたとない好機だと捉えています。青函連携により、津軽海峡圏がひとつの産業・経済圏となり、新たなビジネスモデルをつくり首都圏に向けて発信していく。これは、両エリアの経済界にとってビッグチャンスではないでしょうか。

函館商工会議所では、青森・弘前商

工会議所と事業連携し、互いの強みを結び付けるビジネスマッチングに取り組んできました。その中から、青森のカシスと函館のクリームチーズを使用した焼菓子や、にんにく醤油、りんごサイダー、ラーメンなどバラエティー豊かな逸品が誕生しました。また、函館には蔵元がないため、道南の復刻銘柄米を原料に弘前の蔵元が日本酒を醸造するなど、技術連携も行っています。

今後、青森と函館が約1時間で結ばれることで、観光、ビジネス面はもちろん、医療、教育など、暮らしのなかのさまざまな分野で可能性が広がっ

ていくことが予想されます。

観光においては、「周遊」がキーワードで、新千歳空港に到着した観光客には、函館観光の後に北海道新幹線で青森へ足を延ばしてもらい、函館空港に到着した外国人観光客も函館から青森へ、また反対に青森に来た観光客は新幹線で函館へというように、海を越えて周遊できる仕掛けが必要です。青森と道南が互いに送客し合う関係性を築きながら、人と人、モノとモノの交流をさらに深め、津軽海峡圏の活性化に向けて一緒に取り組んでいきましょう！



【インタビュー】
函館商工会議所副会頭
北海道新幹線新函館開業対策推進機構会長
にしむらのりとし
西村 憲人さん



函館山夜景



赤レンガ倉庫群